

授業科目名		子ども家庭支援論				科目コード	E3101
担当者		田丸尚美・金田美幸				履修区分	※下記参照
開講年次	3年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
保育者として今なぜ家庭支援が求められているか理解するために、保育という行為を子育ての営みという大きな視野から捉えなおし、家庭支援の枠組みを明らかにする。							
児童の最善に利益にたった家庭支援を追求するために保育者に求められるスキルとして、子どもと家族のアセスメント、支援計画、支援の実際と評価等、実践事例を通して学ぶ。保護者の生活問題や育児の不安、児童虐待などの養育問題への対応の原則と技法を学ぶ。							
(到達目標)							
保育者に求められる家庭支援の意義と枠組みについて学び、社会状況の変化を踏まえ家族の生涯発達の見通しを得た上で、児童の最善の利益にたった家庭支援のあり方を学ぶことを目的とする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
講義中の私語や携帯電話の使用は控えてください。							
＊コースによって「履修区分」が違います。教育課程表をよく確認してから。履修登録を行ってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	保育と子育て						
2	家庭支援が求められる背景(1)社会の変化						
3	家庭支援が求められる背景(2)個人のライフサイクルの変化						
4	家庭支援の枠組み(1)児童の最善の利益をふまえて						
5	家庭支援の枠組み(2)家庭の多様化をふまえて						
6	家庭支援の枠組み(3)地域の社会資源を生かして						
7	家庭支援の対象						
8	家庭支援の方法						
9	家庭支援の評価						
10	保育の特性を生かした支援						
11	保育者として実践する家庭支援～在園児の事例(育児不安)						
12	保育者として実践する家庭支援～在園児の事例(発達障害と医療的ケア)						
13	保育者として実践する家庭支援～在園児の事例(児童虐待等)						
14	保育者として実践する家庭支援～地域子育て支援事業						
15	保育者として実践する家庭支援～未就園児の事例						
成績評価方法							
試験 60% レポート 40%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
子ども家庭支援論 第2版		児童育成協会・松原康雄		中央法規		978-4-8058-8788-2	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
毎回の配布資料を自分なりに管理しましょう。授業後に講義レジュメや資料、ノートを読みかえしてみてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オフィスアワーに研究室を訪ねてください。							

授業科目名	子育て支援論				科目コード	E3102	
担当者	石川 幸枝				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)							
保育と保護者支援の関係、重要性を学び、子育て支援の意味をしっかりと理解した保育者になることをめざす。 その結果、保育をするうえで子どもたちの健全な発達保障へとつながることへの理解を深める。							
(到達目標)							
1. 保育所に通所している保護者と地域の保護者における子育ての現状を把握する。 2. 子育て支援に関する地域社会との連携を理解し、ネットワークの充実について探求する。 3. 子育て支援の具体的な支援の内容や方法について学ぶ。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
教科書及び講義のレジュメに目を通し、質問事項や疑問に思うことを列挙して授業に参加すること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	保育所保育指針における子育て支援						
2	子育て支援の現状(保育所に通所している保護者)						
3	子育て支援の現状(地域の保護者)						
4	公的機関の子育て支援システムと子育て支援のネットワーク						
5	子育て支援の具体的支援の内容と方法 1						
6	子育て支援の具体的支援の内容と方法 2						
7	子育て支援の課題						
8	子育て支援の展望						
成績評価方法							
レポート試験 80%、レポート提出 20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価しない							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
子ども家庭支援論		浅井春夫・所貞之 共著：石川幸枝ほか		建帛社		978-4-7679-5118-8	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
保育者と保護者がはぐくむ「対話のちから」Q&A55		浅井春夫、石川幸枝、 樋口和恵		かもがわ出版		978-7803-0204-2	
相談支援 保育相談支援		笠師千恵、小橋明子		中山書店		978-4-521-73956-4	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
先輩保育者として保育の中で、保護者との連携の重要性など具体的な事例をお話しながら保育の遣り甲斐・楽しさ・喜びを伝えたいと思います。事例研究、グループ討議を取り入れながら授業を進めます。意見交流により理解を深めていきましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
教務課を通して連絡の上相談に応じます。							

授業科目名		学童保育論				科目コード	E3103
担当者		福田 敦志				履修区分	選択
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)							
学童保育の発展史を批判的に検討するとともに、保護者の働く権利を保障しつつ、子どもたちの放課後の生活をともに創造していくための学童保育指導員の指導の在り様について、理論的かつ実践的に検討していく。							
(到達目標)							
1.学童保育の意義と課題を理解する。							
2.学童期の子どもの発達を保障する視点と方法を理解する。							
3.学童保育指導員の役割や指導の在り様について、理論的かつ実践的に理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
すべての授業に出席した上で、授業中の議論に積極的に参加してほしい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	学童保育の誕生とその発展史						
2	学童保育をめぐる法的整備とその実態						
3	学童期の子どもの発達を保障する視点と方法① — 乳児期から幼児期の課題の克服をめぐる —						
4	学童期の子どもの発達を保障する視点と方法② — 少年期から思春期の課題の克服をめぐる —						
5	学童保育における生活の指導の視点と方法						
6	学童保育における行事の指導の視点と方法						
7	学童保育における遊びの指導の視点と方法						
8	学童保育実践の課題と展望 — まとめにかえて —						
成績評価方法							
レポート（60％）と授業への参加（40％）を総合して評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
(適宜、資料を配布します)							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
『荒れる子どもとガチンコ勝負』		清水結三・福田敦志		フォーラム・A		489428488X	
『現代日本の学童保育』		日本学童保育学会		旬報社		4845112760	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
学童保育をめぐる今、何が話題となっているのかを知るためにも、『学童保育研究』(日本学童保育士協会編)のバックナンバーに目を通しておくとよいかと思います。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
必要な場合は、教務課を通して連絡してください。							

授業科目名		ボランティア論				科目コード	E3105
担当者		上田 英司				履修区分	選択
開講年次	1 年	開講期	後期	授業回数	15 回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) ボランティアについての概論を知ってもらい、具体的なボランティアの実例について紹介する。体育館を使用した体験型の講義を実施する。障がい者を疑似体験する機会を作り考える機会を提供する。ボランティアの具体例を紹介し、参加する意欲・知識を学ぶ。							
(到達目標) ① 自ら考えて行動し、何らかのボランティアに参加できる。 ② ボランティア経験を将来の職業・社会人としての成長に役立てられる能力を身につける。 ③ 活動をすることにより「楽しい」と思える経験の場であることを理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
出席を重視するので、遅刻、早退、授業中の退出等については厳しく注意する。飲食物を机の上に置かない。その他、具体的な注意事項に関しては、初回授業時に伝達する。授業終了前に小テストを行います(出席を兼ねます)。 教員の都合により、順番が前後することがある。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	ボランティアの活動と定義						
2	ボランティアのメリットとデメリット						
3	ボランティアの探し方と注意点						
4	ボランティアの形態						
5	ボランティア団体の設立						
6	ソーシャルビジネス						
7	パラスポーツとボランティア(パラセーリングとボッチャ競技のサポート)						
8	ボランティア実習(ボッチャ)						
9	ボランティア実習(※未定。パラスポーツを体験)						
10	コメディカルとしての災害ボランティア(概論)						
11	コメディカルとしての災害ボランティア(被災者の実情)						
12	ボランティア実習(車いすバスケ)						
13	ボランティア実習(フライングディスク)						
14	海外(ドイツ)のボランティア						
15	SDGsとボランティア						
成績評価方法							
出席日数 60%及び各授業中でおこなう小記述レポートの内容 40%で評価します。 (具体的な評価方法は授業開始時に説明) ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
なし							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
なし							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
日々の生活の中でボランティア的行動を実行してみる。 積極的に、ボランティア活動に参加して、友人と体験を共有し、地域社会の問題点を考えてみる。 短時間で問題を解決する手段を経験する。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
教務課に連絡してください。							

授業科目名		特別支援教育				科目コード	E3106
担当者		湯浅 恭正				履修区分	必修
開講年次	1 年	開講期	前期	授業回数	15 回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の教育を支える制度や教育上の仕組み、教育内容、障害特性の理解と支援、またその指導方法の特徴を学ぶ。また、障害のあるも者となない者が共に生きる社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築についての現状と課題について学び、考えることができるようにする。							
(到達目標)							
①特別支援教育の理念と制度を理解する。							
②特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の発達特性の理解と支援・指導方法の特徴を理解する。							
③インクルーシブ教育システムの構築における特別支援教育のすすめ方についての基礎を学び理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
スマートフォンの使用、居眠り、私語等の迷惑行為は禁止します。また、授業に必要なものは、机上に置かないでください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	特別支援教育を学ぶために-授業のガイダンス						
2	インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念と制度						
3	発達障害、知的障害のある児童・生徒の発達特性						
4	発達障害、知的障害のある児童・生徒の心理特性						
5	特別支援学校・学級に在籍する児童・生徒(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不学習・発達における困難さ						
6	特別な支援を必要とする幼児の支援方法						
7	特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法						
8	教育課程における「通級による指導」「自立活動」の位置づけ						
9	「通級による指導」の内容						
10	「自立活動」の内容						
11	個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義と教育課程						
12	個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する方法						
13	関係機関と連携して特別支援教育の体制を構築する意義						
14	母国語や貧困等の問題により特別なニーズのある児童・生徒の困難さと組織的対応						
15	インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向について-授業のまとめ						
成績評価方法							
最終の総括的報告 80%、各授業内でのレポート 20%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
よくわかる特別支援教育		湯浅恭正(編)		ミネルヴァ書房		978-4-623-08125-7	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
特別支援学校学習指導要領		文部科学省		海文堂出版		978-4-303-12424-3	
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メールあるいは、オフィスアワーに訪問してください。							

授業科目名		療育Ⅰ				科目コード	E3107
担当者		中條 晶子				履修区分	選択
開講年次	3 年	開講期	前期	授業回数	15 回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
保育や教育の現場で小児領域の言語聴覚療法の知識がなぜ必要なのかを理解し、小児領域の言語聴覚療法が対象とする子どもの特性を知り、保育や教育の現場での対応を学ぶ。							
(到達目標)							
1. 小児領域の言語聴覚療法の実際を把握し、対象となる子どもの特性を理解する。							
2. 小児領域の言語聴覚療法の対象となる子どもへの療育的対応や合理的配慮の内容と方法を学ぶ。							
3. 療育にかかわる関係機関の把握と関係者との連携を理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
他の学生の受講の妨げとなるような行動(授業中の私語、携帯電話の使用等)は禁止。							
配布資料について、予備の配布は行いません。紛失した場合は各自の責任において、他の学生からコピー等をしてください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	言語聴覚療法と療育						
2	教育現場における合理的配慮と言語聴覚療法						
3	教育現場における合理的配慮 ～事例を通して～						
4	ことばとコミュニケーション						
5	言語聴覚士の立場から見た乳児期の課題						
6	言語聴覚士の立場から見た幼児期の課題						
7	言語聴覚士の立場から見た学童期の課題						
8	言語聴覚療法の実際 ―発音の問題に対して―						
9	言語聴覚療法の実際 ―聞こえの問題に対して―						
10	言語聴覚療法の実際 ―ことばの遅れに対して―						
11	言語聴覚療法の実際 ―やりとりの問題に対して―						
12	言語聴覚療法の実際 ―読み書きの問題に対して―						
13	言語聴覚療法の実際 ―吃音に対して―						
14	言語聴覚療法の実際 ―肢体不自由／摂食・嚥下の問題に対して―						
15	家族の援助と支援のあり方、関係機関との連携						
成績評価方法							
期末試験 85％、講義時に配布する小プリントの提出 15％							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
事前の購入は必要としない							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
授業後に配布資料に目を通しどのような情報がどこに記載されているかわかるようにし、必要ときに該当資料にアクセスできるようにしてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
講義終了後、教室で。授業時以外は教務課に連絡してください。							

授業科目名		療育Ⅱ				科目コード	E3108
担当者		竹内 吉和				履修区分	選択
開講年次	4年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
障害のある子どもの保育・教育について現場の実情に鑑みて実践的かつ具体的に解説していく。第一に幼稚園・保育所等の保育現場でニーズが高まっている発達障害について解説する。第二に障害のある子どもの早期発見・早期支援を視野に入れた個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成や統合保育における指導計画を実際に立案・作成できるように演習を行う。第三に個別の支援の具体的方法と学校現場や集団保育での支援者の配慮事項と実践的な対応方法について解説する。							
(到達目標)							
(1) 発達障害に関する乳幼児の特徴と早期発見・早期対応について理解する。(2) 幼児児童生徒の実態把握ができる。(3) 個別の指導計画、個別の教育支援計画の立案・作成ができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
ノートやファイルを1冊用意して、授業で配布したプリント等の資料はノートに貼ったり授業の重要事項を書きとったりしてすることを求めたい。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	障害の概念と障害児保育及び特別支援教育の現状						
2	障害のある子どもの保育及び教育の実際						
3	障害のある子どもの支援計画及び教育支援計画						
4	保護者や地域の関係機関等との連携について						
5	障害のある子どもの保育・教育の現状と課題について						
6	早期発見・早期療養・親支援の重要性について						
7	早期発見から早期支援に向けて保育士・教師に求められていること						
8	早期発見・早期支援の地域システム						
9	スクリーニングツールの効果と限界						
10	早期発見をめぐる親の葛藤への支援						
11	ペアレントトレーニングとペアレントメンター						
12	地域の幼稚園・保育園における支援						
13	早期療育から学校教育への移行						
14	これからの発達障害のアセスメント						
15	事例演習						
成績評価方法							
筆記試験(試験60分・解説30分)40%、レポート・課題(提出後、解説30分)40%、授業への参加20%、合計100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
発達障害の早期発見・早期療育・親支援		本田秀夫編著		金子書房		978-4-7608-9545-8	
コンパス 障害児の保育・教育		武藤久枝・小川英彦編著		建帛社		978-4-7679-5064-8	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
発達障害が少年犯罪の原因ではなかった		竹内吉和		ザメディアジョン		978-4-86250-536-1	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
実務教員による授業科目と捉えてよい。担当者は教育委員会特別支援教育担当指導主事として勤務後、特別支援学校等で発達障害児支援の専門家としての業務を遂行していた。その後、竹内発達支援コーポレーションを設立して地域支援事業を展開しており、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「教育者・保育者としての専門的な知識と技能」を獲得することができる。多数の映像資料、音声資料、紙媒体の資料を活用するが、配布したプリント等は保管して重要事項を書きとったりすることを求めたい。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メールアドレス:hattatsu@song.ocn.ne.jp に連絡をしてください。							

授業科目名		病弱児保育論				科目コード	E3109
担当者		俵 佐和子				履修区分	選択
開講年次	2年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
病気に罹患した子どもの状態を把握し、その子どもたちの身体的精神的状態について学びます。							
そのうえで、病気を抱える子どもたちへの保育、授業のあり方、日常の保育、学校生活の中での対応や援助方法などを、具体的な事例を参考に考えていきます。							
(到達目標)							
・病気の子どもたちの心と身体、そしてその家族はどんな状況にいるのかを理解する。							
・病気の子どもたちへの保育や授業のありかた、援助方法、家族との関わりかた、家族への援助内容などを考えられるようになる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
テキストは使用いたしません。適宜、課題または資料を配布いたします。ディスカッションまたはレポート提出していただきます。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	病弱・身体虚弱児とは…健康との違い？子どもの心と身体への影響、親への影響						
2	成長発達への影響						
3	何か違う？何が違う？観察してみよう。						
4	疾患や症状における対応 アレルギー(食物・喘息)、てんかん(熱性けいれんとの相違)、1型糖尿病						
5	望まない妊娠、思いがけない妊娠 事例検討						
6	5回目続き 出生前診断との狭間 事例検討						
7	里親制度 養子縁組、特別養子縁組 事例検討						
8	かけがえのない命の誕生 自分を認める 認められる						
9	8回目の続き 性を考える						
10	病気・病弱・障害児を考える 移動(車いすの使い方) 事例検討						
11	絆、愛着…生育歴から考える親子の関係と関わり						
12	11回目続き 事例検討						
13	不登校、心の動き、周囲との関わり、親なら・兄弟ならどう？ 事例検討						
14	13回目続き 虐待対応 事例検討						
15	子どもの立場、親の立場、先生の立場から考える まとめ						
成績評価方法							
講義内容に関するレポート提出 40% グループワークへの参加度 30% 筆記試験の結果 30% を総合して評価します。							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としません。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
使用しません							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
適宜ご紹介します							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
日頃から、新聞や雑誌などの中で病気の子どもに関するニュース、病気の子どもに関する政策、取り巻く環境の問題点などを意識して読み、いろいろと考えてみてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	発達障害カウンセリング論				科目コード	E3110	
担当者	加藤 弘美				履修区分	選択	
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)							
発達障害を抱えた子どもの発達の過程や生活上の困難感を理解し、発達支援の方法について、それぞれのライフステージや地域における多様な支援の実際を通して学ぶ。また、発達障害を抱えた子どもの保護者の子育てについて知り、共感的理解に基づいた子育て支援や相談のあり方を習得する。							
(到達目標)							
発達の特徴や障害特性が把握されるまでの子どもに対する支援のあり方を学ぶとともに、障害のある子を育てる保護者の子育てを支援するための関係づくりについて理解する。我が子の発達障害に気づき、子どもの特徴を理解して障害を受容する過程に寄り添う際に生かす、カウンセリングマインドを習得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
スマートフォンの使用、居眠り、私語等の迷惑行為は禁止します。また、授業に必要なものは、机上に置かないでください。資料や文献をよく読み、発表や意見交換に備えよう							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	障害を抱える子どもの子育て						
2	障害を抱える子の保護者を理解する～障害受容段階論と螺旋モデル						
3	障害を抱える子の保護者を理解する～子育て支援モデルへの転換						
4	乳幼児期の発達支援 支援の入り口としての乳幼児健診						
5	親子関係を支える支援						
6	保育園・幼稚園における支援						
7	コンサルテーションと保護者との関係づくり						
8	就学移行期の相談						
成績評価方法							
期末試験 60%、授業内提出物 40%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
発達障害のある子と家族の支援		中田洋二郎		学研プラス		978-4058009024	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
講義後には毎回の授業で取り上げる一つ一つの事柄を自分との関わりで考えてほしい。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メールあるいは、オフィシアワーに訪問してください。							

授業科目名	医療福祉カウンセリング論					科目コード	E3112
担当者	元満 俊介					履修区分	必修
開講年次	4年	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 子ども、小学生を対象に、医療の視点、福祉の視点から、どのような関わりやカウンセリングをするべきか、子どもの成長、障害の理解、特性に対して保育士、教員としてどのような配慮、専門性が必要か会話の仕方、カウンセリングの仕方を学ぶ。							
(到達目標) カウンセリング、医療、福祉、教育から考えること、専門性、技術を学ぶこと。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
ロールプレイを体験する中で保育士・教員役。子ども役、観察者役。答えは一つではない。発言方法を色々考えること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション、ロールプレイ 演習①改めて自己紹介、②改めて他者紹介。						
2	自己理解、自己の傾向、自己覚知 演習②子どもと面接、非言語を読み取る。						
3	子どものストレス、援助職の燃え尽きについて 演習③私を知る、家族、友達を知る。						
4	福祉マインド、コーチング、ソーシャルワーク 演習④性格テスト等。						
5	行事を介して、レクから 子供の心の動き 演習⑤レク療法、福祉療法。						
6	カウンセリング事例①子ども全般、思春期、虐待、非行・依存症、児童相談所・保健所等						
7	カウンセリング事例②障がい全般、知的・精神・発達・高次能・LGBT・重度障害等						
8	カウンセリング事例③子どものいじめ・うつ・自殺、家族の貧困、生活困窮、子ども食堂等						
成績評価方法							
毎回、授業后感想文 50%、まとめの感想文 50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
なし							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
なし							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
毎回、ロールプレイで声かけ介入方法を体験します。又、自身の関わり方、話し方の傾向を確認していきます。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名		小児保健学概論				科目コード	E3113
担当者		藤原 理恵子				履修区分	選択
開講年次	3年	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)							
子どもの健康保持・増進に努めるため、胎児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期と常に成長・発達する子どもの身体的・生理学的特徴について概説し、小児期に特徴的な疾患や障害とその対処方法について学ぶ。							
(到達目標)							
1. 胎児期から思春期における身体的・生理学的特徴について説明することができる。							
2. 乳幼児期にかかりやすい感染症とその予防・対処方法について説明することができる。							
3. 小児期に起こりやすい臨床症状とその対処方法について説明することができる。							
4. 小児期に特徴的な疾患についての概要を知ることができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・資料は講義時に配布します。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	小児の身体発育と生理機能の発達1 新生児期・乳児期						
2	小児の身体発育と生理機能の発達2 幼児期・学童期・思春期						
3	小児期にかかりやすい感染症とその予防・対処						
4	小児期に起こりやすい症状1 発熱・嘔吐・下痢・脱水						
5	小児期に起こりやすい症状2 呼吸困難・けいれん・痛み						
6	小児の疾患1 アレルギー性疾患・慢性疾患						
7	小児の疾患2 先天性疾患・外科的治療が必要な疾患						
8	まとめ						
成績評価方法							
試験 70%、講義中に行うミニテスト 30%にて評価を行う。							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
適宜、紹介します							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
講義後は復習を行い、学びを深めましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
質問などがある場合は、講義終了後に声をかけてください。							

授業科目名		児童ソーシャルワーク				科目コード	E3114
担当者		福岡 律子				履修区分	選択
開講年次	3年	開講期	前期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)							
ソーシャルワークは、日常の人と人との相互作用場面で生じた問題の解決を志向し、問題を維持させている悪循環の相互作用を変容させることで、「問題」を解決・解消しようと試みる理論と技法の体系である。本授業では、保育士として子どもとその家族に生じた問題の解決を支援するための対人支援の理論的枠組と、支援の技法を学び、個別援助の実践事例を用いた演習を通して、支援の実践についてイメージを持ちながら、援助実践に役立つものの見方や考え方、コミュニケーション技法を身につけることを目的とする。							
(到達目標)							
1. 対人支援の基礎理論としてコミュニケーション理論の基本や視点を理解する。 2. 対人支援に役立つコミュニケーションの技法、特に質問技法を知り、意識して使えるようになる。 3. 対人支援専門職としての自覚を持ち、支援者としての姿勢や構えを身につける。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
1. 教科書は使用せず、毎回の授業テーマに関する資料を配布します。各自でファイリングをお願いします。 2. 毎回の授業終了時に振り返りレポートを書いて提出してもらいます。 3. 課題の提出は期限厳守とします。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は控えてください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション:授業概要の説明、コミュニケーション理論について説明						
2	演習:コミュニケーション(相互作用)の視点からの逐語分析						
3	ソーシャルワークにおける相談支援の手順:オープニング、トラッキング、リフレクション						
4	事例演習:オープニングからリフレクション(相談の開始から解決策の立案)までの事例の考察						
5	支援技法:解決を志向するための質問技法の紹介						
6	演習:質問技法の実践練習(シナリオづくり、ロールプレイ)						
7	事例演習:事例の見立てや分析、介入プランの立案についてグループで検討						
8	事例演習:プランに沿ったやりとりのシナリオづくりとロールプレイ発表、フィードバック						
成績評価方法							
期末レポート課題:50%、授業内のレポート・ワークシート 30%、グループワークへの取り組み 20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
なし							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
人間コミュニケーションの語用論 相互作用パターン、病理とパラドックスの研究		ポール・ワツラヴィック、 ジャネット・ベヴン・パヴェ ラス、ドン・D・ジャクソン		二瓶社		4-931199-52-6	
ファミリー・ソーシャルワークの理論と 技法		大下由美・小川全夫・ 加茂陽編		九州大学出版会		978-4-7985-0143-7	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
・子どもや家族支援の事例を元に、事例の見立てや分析、それに基づいた支援場面でのやりとりのシナリオづくりなど、グループでの演習を多く取り入れたいと考えています。子どもや家族の問題解決に役立つ知識や技法を身につけるためと思って、周りの人と協力する力を発揮しながら、積極的に取り組んでもらえたらと思います。 ・疑問に感じたことやよく分からないことがあれば、そのままにせず、質問してください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オリエンテーションの際にお知らせします。							

授業科目名		QOL 概論				科目コード	E3115
担当者		吉原 直樹				履修区分	選択
開講年次	3 年	開講期	後期	授業回数	8 回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)							
QOL とは“生活の質、人生の質、生の質”と訳され、“QOL(キュー・オー・エル)”、“クオリティ・オブ・ライフ”と表現されます。QOLは、心身の健康度、良好な人間関係、仕事や家庭生活の充実感、レクリエーションやレジャー活動など様々な観点からとらえられています。この授業では、病気の子どもだけでなく、すべての人の心身の健康を包括的に考えます。昨今の社会でとりわけ重要視されてきた背景について、事例検討を通して概観します。							
(到達目標)							
1 QOL とは何かを説明できる。							
2 子どもの QOL の維持向上に必須な条件をいくつか上げることができる。							
3 自らの QOL について客観的にとらえることができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。配布資料は授業でのみ配布します。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	QOL の概要、主観的・客観的な指標						
2	基本的欲求と QOL						
3	発達課題と QOL						
4	生活習慣と QOL						
5	環境と QOL						
6	ICF(国際生活機能分類)と QOL						
7	子どもにみられる疾患と QOL						
8	チームによる支援						
成績評価方法							
課題 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
配布資料							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
子どもの QOL 尺度その理解と活用		古庄 純一・他		治療と診断社		9784787820907	
子ども期の養育環境と QOL		菅原ますみ		金子書房		9784760895342	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
・座学のみならず演習形式を取り入れます。自分自身の意見を積極的に発言し、取り組みましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
質問等につきましては、メールで時間等について予め連絡・確認して下さい。							

授業科目名		知的障害児教育演習				科目コード	E3139
担当者		竹林地 毅				履修区分	※下記参照
開講年次	2年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 特別支援学校(知的障害)と小学校・中学校の特別支援学級(知的障害)の授業参観から課題レポートを作成し、課題レポートをもとにした協議により、気づきと学びを深める。また、児童生徒の障害の状態等を考慮した教材教具を作成し、評価・改善のプロセスを体験する。さらに、教材研究と学習指導案の作成について基礎的・基本的事項を学ぶ。							
(到達目標) 特別支援学校(知的障害)・特別支援学級(知的障害)の授業参観と協議により知的障害教育の教材研究と学習指導案の作成等、授業づくりについて実際の・体験的に理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
※コースによって「履修区分」が違います。教育課程表をよく確認してから、履修登録を行ってください。							
授業スケジュール							
回数	講義内容						
1	特別支援学校(知的障害)小学部の授業参観と課題レポート作成						
2	課題レポートにもとづく協議とまとめ						
3	特別支援学校(知的障害)中学部の授業参観と課題レポート作成						
4	課題レポートにもとづく協議とまとめ						
5	特別支援学校(知的障害)高等部の授業参観と課題レポート作成						
6	課題レポートにもとづく協議とまとめ						
7	特別支援学校(知的障害)児童生徒の教材教具の作成						
8	特別支援学校(知的障害)児童生徒の教材教具の評価と改善						
9	小学校特別支援学級(知的障害)の授業参観と課題レポート作成						
10	課題レポートにもとづく協議とまとめ						
11	中学校特別支援学級(知的障害)の授業参観と課題レポート作成						
12	課題レポートにもとづく協議とまとめ						
13	小学校・中学校特別支援学級(知的障害)児童生徒の教材教具の作成						
14	小学校・中学校特別支援学級(知的障害)児童生徒の教材教具の評価と改善						
15	知的障害教育の教材研究と学習指導案の作成						
成績評価方法							
課題レポート（60%）、作成した教材（20%）協議のまとめ（20%） 定期試験は実施しない							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）		文部科学省					
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）		文部科学省					
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）		文部科学省					
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
特別支援学校小学部知的障害者用さんすう・算数・こくご・国語教科書		文部科学省		東京書籍			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
学校の都合によって訪問日程を調整するので、時間割のコマ以外の時間に訪問することを理解してください。体験的・实际的・協働的・創造的な学びがあり、教育実習で生かせる学びをめざします。皆さんの独創力に期待しています。							
教員との連絡方法							
質問や相談は大歓迎です。メール(chikurinji@hcu.ac.jp)で予約をしてください。対面でもオンラインでも大丈夫です。							

授業科目名		障害児の教育課程と指導法				科目コード	E3140
担当者		竹林地 毅				履修区分	※下記参照
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 特別支援学校等の教育課程の意義や編成方法やカリキュラム・マネジメント(以下、カリマネ)について理解する。また、障害の状態等を踏まえた各教科等の指導と自立活動の指導の配慮事項を理解し、授業設計を行う方法を身に付ける。							
(一般目標) ○特別支援学校における教育課程の意義を理解し、つながりを実現する教育課程の編成とカリマネの考え方を理解する。 ○各教科等の指導と自立活動の指導における配慮事項を理解し、授業設計を行う方法を身に付ける。							
(到達目標) ○障害の状態等や学習状況を踏まえ、各教科の内容を選定・組織し、授業時数を定めて教育課程を編成することを理解している。また、効果的な指導の形態(教科等別・教科等合わせた指導)を選択・組織することを理解している。 ○個別の指導計画の評価と改善をカリキュラムマネジメントの側面の一つとして理解している。 ○自立活動の指導における個別の指導計画の作成の手続きと配慮事項について理解している。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
※コースによって「履修区分」が違います。教育課程表をよく確認してから、履修登録を行ってください。							
授業スケジュール							
回数	講義内容						
1	特別支援学校の教育と教育課程の意義、教育課程の改善(カリマネ)の意義						
2	特別支援学校の教育課程に関する法令と特別支援学校学習指導要領の規定とその変遷						
3	特別支援学校(知的障害)の各教科の内容と指導の考え方						
4	特別支援学校(知的障害)の自立活動の内容と指導の考え方						
5	特別支援学校(知的障害)の年間指導計画・単元や題材の指導計画・個別の指導計画						
6	特別支援学校(知的障害)の各教科(国語・算数・数学)の授業づくりの実際						
7	特別支援学校(知的障害)の各教科(音楽・図工・美術・体育等)の授業づくりの実際						
8	知的障害のある児童生徒の各教科等を合わせた指導の考え方と実際						
9	特別支援学校(知的障害)の自立活動の指導の実際						
10	特別支援学校(知的障害)の教育課程の編成と改善(カリマネ)の実際						
11	特別支援学校(肢体不自由・病弱)の自立活動の内容と指導の考え方						
12	特別支援学校(肢体不自由・病弱)の自立活動の指導の実際						
13	小学校・中学校の特別支援学級の教育課程と指導						
14	小学校・中学校・高等学校の通級による指導の教育課程と指導						
15	インクルーシブ教育システムの構築と教育課程の課題						
成績評価方法							
授業課題レポート(20%)、定期試験(80%)							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編、自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)		文部科学省					
特別支援学校学習指導要領解説各 教科等編(小学部・中学部)		文部科学省					
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
授業で紹介します。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
先人の願いが込められた学習指導要領や法令の意義を深く理解し、授業づくりの奥深さを一緒に学びましょう。							
教員との連絡方法							
質問や相談は大歓迎です。メールで予約をしてください。対面でもオンラインでも大丈夫です。							

授業科目名		視覚障害児の心理・生理・病理と指導				科目コード	E3141
担当者		牟田口 辰己				履修区分	※下記参照
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
視覚障害教育の基礎となる視覚障害児の生理・病理, 心理, 指導法, 制度の枠組み, 教育の実際について理解することを目標とする。ここでは視覚障害教育の基礎となる視覚障害児の生理・病理, 心理, 指導法, 制度の枠組み, 教育の実際についてテーマごとにとりあげ, 講義を行う。							
(到達目標)							
視覚障害教育を行なっていく上で必要となる基礎的な生理・病理的な事項と心理学的な知見を概観するとともに, 視覚障害教育の教育課程と学習指導要領を解説する。さらに, 特別支援学校等(視覚障害)において展開されている授業の実際について, 障害に応じた授業の特色を理解し, 授業を構成するために必要な知識や技能, 授業研究のための基礎的な事項について理解を深めることをねらいとする授業である。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
※コースによって「履修区分」が違います。教育課程表をよく確認してから、履修登録を行ってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	視覚器官の構造						
2	視機能の概要(視力、視野、色覚)						
3	主要な眼疾患と教育的配慮						
4	弱視者の視知覚特性						
5	触運動知覚の概要						
6	触運動知覚と点字						
7	視覚障害児童生徒の就学支援(多様な教育の場)						
8	視覚障害教育における教育課程と学習指導要領(各教科に共通した5つの配慮事項)						
9	点字教科書の作成と配慮						
10	教科指導の実際(国語における漢字・漢語の指導)						
11	教科指導の実際(算数における計算と図形の指導)						
12	見えにくさを補う光学補助具等の活用と拡大教科書						
13	自立活動の指導の実際(視覚特別支援学校における歩行指導)						
14	視覚障害者と歩行(アイマスクによる疑似体験)						
15	視覚障害教育の課題と講義のまとめ						
成績評価方法							
筆記試験 80%, および授業態度等 20%により総合的に評価する。							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
五訂版「視覚障害教育に携わる方のために」		香川邦生編著		慶應義塾大学出版会			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
メールアドレス							
braille0406@gmail.com							

授業科目名		聴覚障害児の心理・生理・病理と指導				科目コード	E3142
担当者		川合 紀宗				履修区分	※下記参照
開講年次	3年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
聴覚障害のある幼児児童生徒に対する教育的支援の制度・実践的側面、聴覚障害の心理・生理・病理的側面に関する基本的な事項の知識を身につけ、聴覚障害教育の在り方について学習する。							
(到達目標)							
①聴覚障害教育について考える際に基盤となる事項について、基礎的な知識を身につけることができる。②聴覚障害教育の実際について、幼児児童生徒の発達段階を追い、具体的に教育の内容と方法を理解することができる。③聴覚障害の心理・生理・病理的側面に関する基本的な事項を理解することができる。④聴覚障害教育の望ましいあり方について主体的に考え、話し合うことができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
※コースによって「履修区分」が違います。教育課程表をよく確認してから、履修登録を行ってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	聴覚障害とは						
2	聴覚障害教育の歴史的展開						
3	聴覚障害教育の解剖学						
4	聴覚障害教育の生理学						
5	聴覚障害教育の病理(概論)						
6	聴覚障害の原因・病因						
7	聴覚障害児の心理(概論)						
8	聴覚障害児の発達心理学的側面						
9	聴覚障害児の学習心理学的側面						
10	聴覚障害児のコミュニケーション						
11	聴覚障害児の評価・測定						
12	聴覚障害児の教育課程						
13	特別支援学校に在籍する聴覚障害児に対する支援の現状と課題						
14	特別支援学級に在籍する聴覚障害児に対する支援の現状と課題						
15	通級による指導を受けている聴覚障害児に対する支援の現状と課題						
成績評価方法							
授業中の積極的な参加(質疑応答、グループワーク等:40%)や課題レポートの内容(60%)によって評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
「聴覚障害児の教育と方法」		草薙進郎・四日市章編		コレール社			
「聴覚障害教育 これまでとこれから: コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に」		脇中起余子		北大路書房			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名		重複障害・LD児の心理・生理・病理と指導				科目コード	E3143
担当者		落合 俊郎				履修区分	※下記参照
開講年次	3年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
特別支援学校の小中学部内に 31.8%(令和 3 年度)在籍する障害をあわせもつ重複障害児の教育について、盲ろう二重障害児教育に始まる歴史をさかのぼり、知的障害、肢体不自由、病弱をあわせもつ重複障害児の心理、生理及び病理の特徴と授業の展開及び学習指導要領について説明します。さらに、医療的ケアが必要な子どもたちへの対処方法と実践についても講義します。小中学校の通常の級内に 8.85%(令和 4 年度)も在籍すると推定されるLD等の発達障害児の心理、生理及び病理の特性と教育方法を示します。限局性学習症(学習障害)、注意欠如多動症(ADHD)、ASD(自閉スペクトラム症)の一次・二次障害への教育的支援の具体例を説明します。重複障害児と LD 等の発達障害児の教育における課題を明らかにし、解決するための合理的配慮の具体的例とカリキュラム・マネジメントによる教育ならびに保護者支援についても説明します。さらに、教育者に必要な知識、使命感と倫理観を培います。授業の内容に対して積極的かつ主体的に意見の発表を行う授業を行います。そして、教員になる前にボランティア等で社会に貢献する気づきを養います。							
(到達目標)							
重複障害のある児童生徒の教育に関する学習指導要領の内容を理解できる。重複障害のある児童生徒の病理学的・生理学的・病理学的な特徴とその授業を理解し、医療的ケアに必要な知識を含む特別支援学校教諭に必要な総合的な知識、実践的知識を身につける。小学校・中学校の通常の学級に在籍する LD 等の発達障害児の心理、生理及び病理の特徴の理解、合理的配慮を含めた指導法について習得する。具体的には、適切な学級経営と教科学習・自立活動的な授業を行える専門性と資質の向上を目指す。LD 等の発達障害の特性を学ぶ中で、一次障害・二次障害の理解を深める。重複障害児及び LD 等の発達障害児の教育をカリキュラム・マネジメントに則り、ライフステージに応じて必要となる持続する支援の構築、ならびに具体的な教育実践の内容・方法を習得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
※コースによって「履修区分」が違います。教育課程表をよく確認してから、履修登録を行ってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	重複障害について、その定義と心理、生理及び病理の特徴について						
2	重複障害のある児童生徒の行動特性と合理的配慮について						
3	重複障害のある児童生徒の指導法と教育課程：カリキュラム・マネジメントに則った実践と教育						
4	重複障害のある児童生徒の指導方法と教育課程：肢体不自由と重度知的障害と病弱の重複事例の紹介①						
5	重複障害のある児童生徒の指導方法と教育課程：肢体不自由と重度知的障害と病弱の重複事例の紹介②						
6	重複障害のある児童生徒の指導方法と教育課程：盲とろうが重複した事例の紹介						
7	重複障害のある児童生徒の指導方法：医療的ケアと保護者支援について						
8	LD 等の発達障害の精神疾患診断・統計マニュアル第 5 版 DSM-5 での定義・捉え方について						
9	LD等の発達障害児の心理、生理及び病理の特徴について						
10	LD等の発達障害児の教育におけるカリキュラム・マネジメントと合理的配慮：一次障害と二次障害を中心に						
11	LD等の発達障害児の教科学習における留意点と ICT を使用した授業について						
12	LD等の発達障害児のソーシャル・スキルトレーニングとペアレントトレーニングについて						
13	LD等の発達障害児の子どもとその他の子どもが同じ学級に在籍した場面に生ずる課題の対処法について						
14	LD等の発達障害児が在籍する学級における教師の困り感の対処方法と保護者支援について						
15	まとめと振り返り						
成績評価方法							
授業の参加状況(50%)と定期試験(50%)の結果により総合的に評価します。参加状況とは出席・発言・質問・その他の活動等を意味します。ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園部・小学部・中学部)		文部科学省(2018)		開隆堂		ISBN978-4-304-04231-7	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
授業で使用する動画、文献等は全てロイロノートに添付する予定です。予習、復習、拡大学習に使用できます。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
e-mailによって協議、質問・相談を行います。アドレスは授業で伝えます。							

授業科目名	初等教育実習事前事後指導					科目コード	E3116
担当者	権田 あずさ ・ 森下 真実					履修区分	選択
開講年次	3年・4年	開講期	前期 or 後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
初等教育実習では、幼児教育・小学校教育についての大学での理論的な学びを、幼稚園・小学校で具体的体験を通して深める。そのために初等教育実習事前事後指導では、①実習に向かう構えをつくること、②実習記録や指導計画について具体的に学ぶこと、③実習をふり返り次の実習へ向けた課題を明確にすることを行う。							
(到達目標)							
保育者・教育者として実習に取り組むために、以下のことを身につける。							
①保育者・教育者としての基本的な態度・構えや技術 ②実習を通して自己をふり返り課題を明確にする力。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
コースによって実施時期が異なるので注意をすること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション						
2	実習の留意事項(倫理的配慮、実習生の心構え)						
3	初等教育実習の意義、目的						
4	初等教育実習の内容、方法						
5	実習記録について① 実習記録の意義を理解する						
6	実習記録について② 事例等を用い実際に実習記録をとる						
7	指導計画の意義を理解する						
8	実習に向けて① 第1グループの模擬授業会ないし模擬保育会を行う						
9	実習に向けて② 第2グループの模擬授業会ないし模擬保育会を行う						
10	実習に向けて③ 第3グループの模擬授業会ないし模擬保育会を行う						
11	事後指導① 実習の自己評価を行う						
12	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表することにより、他の実習を理解し自己のふり返りを行う						
13	事後指導③ 自己課題の確認、次の実習へ向けた目標の設定を行う						
14	まとめ① 課題の整理						
15	まとめ② 実習のふり返り						
成績評価方法							
授業の提出物 80%、発表 20%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
これまでの講義をふまえて、実習に向けた準備をすすめてみましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	初等教育実習Ⅰ					科目コード	E3117
担当者	権田 あずさ ・ 森下 真実					履修区分	選択
開講年次	3年	開講期	前期 or 後期	実習日数	10日間	単位数	2
実習の概要・到達目標							
(概要) 幼児教育についての大学での理論的な学びを、幼稚園で具体的体験を通して深める。内容は、①幼稚園を学ぶ(環境を理解し構成する)②幼児を学ぶ(幼児の発達段階や個々の独自性を具体的に理解し、保育・教育活動のあり方を学ぶ)③保育者を学ぶ(保育者の仕事や役割を理解し、実践をする)ことを、実習に参加をしながら行う。さらに、指導案を作成し、部分実習を行う。 ※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
(到達目標) 保育者として、以下のことについて具体的な実践力を身につける。①幼稚園の教育課程を意識して活動する②幼児を理解し、保育・教育的な働きかけができる③保育者を理解し、保育者としての実践を部分的にできる。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(履修済の科目) ・初等教育実習事前事後指導							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実習園でのオリエンテーションの内容を理解し、準備をしておくこと。							
実習園での指導を真摯に受け止めて誠実な態度で実習を行うこと。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
6月において、幼稚園における実習を下記のスケジュールで行う。 ・実習園でのオリエンテーション ・実習参加 実習時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習園の評価と教育実習の記録によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名	初等教育実習Ⅱ					科目コード	E3118
担当者	権田 あずさ ・ 森下 真実					履修区分	選択
開講年次	3年・4年	開講期	前期 or 後期	実習日数	20日間	単位数	4
実習の概要・到達目標							
(概要) ○小学校教育コース・初等教育コース・特別支援教育コース 小学校教育についての大学での理論的な学びを、小学校で具体的体験を通して深める。内容は、①小学校を学ぶ②児童を学ぶ③教師を学ぶことを、実習に参加をしながら行う。さらに、指導案を作成し、授業実習・研究授業を行う。 ○保育・幼児教育コース 幼児教育についての大学での理論的な学びを、幼稚園で具体的体験を通して深める。内容は、①幼稚園を学ぶ(環境を理解し構成する)②幼児を学ぶ(幼児の発達段階や個々の独自性を具体的に理解し、保育・教育活動のあり方を学ぶ)③保育者を学ぶ(保育者の仕事や役割を理解し、実践をする)ことを、実習に参加をしながら行う。さらに、指導案を作成し、部分実習を行う。 ※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
(到達目標) ○小学校教育コース・初等教育コース・特別支援教育コース 教育者として、以下のことについて具体的な実践力を身につける。①小学校の教育課程を理解し、それに基づき活動する②児童および学級集団を理解し、教育的な働きかけができる ③教師を理解し、教師としての実践ができる。 ○保育・幼児教育コース 保育者として、以下のことについて具体的な実践力を身につける。①幼稚園の教育課程を理解し、それに基づき活動する②幼児および学級集団を理解し、保育・教育的な働きかけができる ③保育者を理解し、保育者としての実践が全体的にできる。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(履修済の科目) ・初等教育実習事前事後指導 ・介護等体験Ⅰ、介護等体験Ⅱ(事前・事後指導) ※小学校教育コース・初等教育コース・特別支援教育コースのみ							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実習園・実習校でのオリエンテーションの内容を理解し、準備をしておくこと。 実習園・実習校での指導を真摯に受け止めて誠実な態度で実習を行うこと。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
○小学校教育コース・初等教育コース・特別支援教育コース 3年次の10・11月において、小学校における実習を下記のスケジュールで行う。 ・実習校でのオリエンテーション ・実習参加(授業参観・授業実習・研究授業などを行う) ○保育・幼児教育コース 3年次および4年次の5・6月において、幼稚園における実習を下記のスケジュールで行う。 ・実習園でのオリエンテーション ・実習参加 ※なお、いずれも実習時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習園・実習校の評価と教育実習の記録によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							

授業科目名		介護等体験Ⅰ				科目コード	E3119
担当者		竹林地 毅・吉原 直樹				履修区分	選択
開講年次	2年	開講期	通年	授業日数	7日間	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 教員が「個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員の資質向上及び学校教育の一層の充実を図る観点から、小学校教諭の普通免許状取得希望者に特別支援学校及び福祉施設や老人保健施設等での介護等体験を行わせる」こととした法律(小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律)に対応した必修科目である。介護等体験の目的、意義、内容、方法などについて、基礎的な知識を習得する。							
(到達目標) 特別支援学校および福祉施設や老人保健施設等が設置されている目的・意義を理解し、そこに勤務する職員の役割について理解する。 障害者および高齢者等に対する、介護・介助および交流等の体験を行うとともに、その意義等を理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
小学校教諭の普通免許状を取得希望する者は必ず履修すること。 実習先の指導者の指示に従うこと。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
第1日目	社会福祉施設の理解と留意点等(各施設等関係者による) 社会福祉施設での体験活動(1／5日間)						
第2日目	社会福祉施設での体験活動(2／5日間)						
第3日目	社会福祉施設での体験活動(3／5日間)						
第4日目	社会福祉施設での体験活動(4／5日間)						
第5日目	社会福祉施設での体験活動(5／5日間)						
第6日目	特別支援学校の理解と留意点等(各学校関係者による) 特別支援学校での体験活動(1／2日間)						
第7日目	特別支援学校での体験活動(2／2日間)						
成績評価方法							
臨地実習要項の評価表に基づき評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教職関連科目であることの重要性を認識すること。また、社会福祉や特別支援教育の実情を学び、小学校教員としての資質を高めるため、介護等体験活動を今後の大学での学びや教育活動にどう活かしていくかを考えること。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
担当教員から個別に連絡方法(メール・オフィスアワー等)を示します。							

授業科目名		介護等体験Ⅱ（事前・事後指導）				科目コード		E3120	
担当者		竹林地 毅・吉原 直樹				履修区分		選択	
開講年次		2年	開講期	通年	授業回数	8回	単位数		1
授業の概要・到達目標									
(概要)									
介護等体験が、小学校教諭普通免許状取得の要件とされていることの意味を理解する。									
特別支援学校および福祉施設や老人保健施設等での支援内容・方法等について体験を通して学ぶことにより、教育者に必要な豊かな人間性を養うとともに、教育現場との関わりを考える。									
(到達目標)									
特別支援学校および福祉施設・唐人保健施設等で体験することの意義について十分理解する。									
介護等体験を通して考えたこと・気づいたこと等をまとめ、発表する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
小学校教諭の普通免許状を取得する者は必ず履修すること。									
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容								
1	事前指導:介護等体験の意義と内容、体験活動日誌等								
2	事前指導:特別支援学校と体験活動の概要								
3	事前指導:「合同事前指導」への参加								
4	事前指導:福祉施設や老人保健施設等と体験活動の概要								
5	事後指導:体験発表とグループ協議①								
6	事後指導:体験発表とグループ協議②								
7	事後指導:体験発表とグループ協議③								
8	事後指導:介護等体験全体の振り返りと課題レポートの整理								
成績評価方法									
体験活動日誌 50%、課題レポート 50%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者		出版社		ISBNコード			
参考書									
書名		著者		出版社		ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
介護等の体験活動の意義・目的を十分理解した上で、実習に臨むこと。また、課題レポートの作成により、体験を今後の大学での学びや教育活動にどう活かしていくかを考えること。									
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。									
第1回の授業で説明します。									

授業科目名	保育実習Ⅰ					科目コード	E3121
担当者	深澤 悦子・金田 美幸					履修区分	選択
開講年次	3年	開講期	前期 or 後期	実習日数	20日間	単位数	4
実習の概要・到達目標							
(概要) 保育についての大学での理論的な学びを、保育所または幼保連携型認定こども園等とそれ以外の居住型および通所型児童福祉施設等での具体的体験を通して深める。 ※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
(到達目標) ①実習施設の生活に参加し、実習施設の役割について具体的に理解する。 ②観察や子どもとのかかわりを通して子ども理解を深める。 ③保育の計画、支援計画、観察、記録、記録に基づく省察・自己評価について具体的に理解する。 ④生活や遊びの一部分を担当し、保育技術・養護技術を習得する。 ⑤家庭や地域社会との連携について理解する。 ⑥保育士の業務内容、役割分担、チームワーク、職業倫理や子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ⑦安全及び疾病予防への配慮について学ぶ。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目) ・2年後期修了までに、告示別表第1による教科目のうち、37単位以上取得していること							
(履修済の科目) ・保育実習事前事後指導Ⅰ							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・社会的なモラルを忘れることなく、丁寧に対応する。 ・挨拶・日誌提出・出勤・退勤等に気をつけること。(欠勤や遅刻については実習先、大学に連絡する。) ・わからないことや不安なことは、必ず確認してから行動すること。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
8～9月 保育所・幼保連携型認定こども園における実習日数(10日) ・実習施設でのオリエンテーション ・実習参加 ・実習内容(保育所・幼保連携型認定こども園の役割、子ども理解、保育内容・保育環境、保育の計画・記録・省察・自己評価、保育所保育士の業務内容と職業倫理)							
10月 母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設における実習日数(10日) ・実習施設でのオリエンテーション ・実習参加 ・実習内容(施設の役割、子ども理解、養護内容・生活環境、支援計画・記録・省察・自己評価、施設保育士の業務内容と職業倫理)							
実習参加時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習施設での評価(70%)と提出物(保育実習日誌など)(30%)によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
実習施設でのオリエンテーションの内容を理解し、実習の事前準備を十分してください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
授業開始時に伝えます。							

授業科目名		保育実習事前事後指導Ⅰ				科目コード	E3122
担当者		深澤 悦子・金田 美幸				履修区分	選択
開講年次	3年	開講期	通年	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
保育実習では、保育についての大学での理論的な学びを、保育所・幼保連携型認定こども園等とそれ以外の居住型および通所型等の児童福祉施設等で具体的体験を通して深める。そのために保育実習事前事後指導Ⅰでは、①実習に向かう構えをつくること、②実習記録や指導計画・支援計画について具体的に学ぶこと、③実習をふり返り次の実習へ向けた課題を明確にすることを行う。							
※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
(到達目標)							
①保育実習の意義・目的・内容・方法を理解し、実習における自らの課題を明確にする。							
②実習の心構え、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。							
③実習における観察、記録、省察・自己評価の方法について具体的に理解する。							
④実習の事後指導を通して、実習を総括し、自己をふり返り、新たな課題と学習目標を明確にする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
欠席をしないこと							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション、保育実習の意義、目的、内容、方法						
2	実習の留意事項(子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生の心構え)						
3	保育所・幼保連携型認定こども園での実習内容と自己課題の明確化						
4	実習における指導計画と実践、実習記録の意義						
5	実習における観察、記録、省察・自己評価						
6	実習に向けて① 前半グループの模擬保育会を行う						
7	実習に向けて② 後半グループの模擬保育会を行う						
8	事後指導① 実習内容の確認、実習の自己評価						
9	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表し、他の実習を理解し、自己をふり返り、新たな課題を明確にする						
10	母子生活支援施設、障害児入所施設、障害者支援施設、児童養護施設における実習内容と自己課題の明確化						
11	実習施設の役割、養護内容、支援計画						
12	実習における観察、記録、省察・自己評価						
13	事後指導① 実習内容の確認、実習の自己評価						
14	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表し、他の実習を理解し、自己をふり返り、新たな課題を明確にする						
15	実習報告会						
成績評価方法							
提出物(実習日誌他)80% 実習報告会プレゼンテーション20%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
施設実習の手引き		西川ひろ子・山田修三・中原大介編		溪水社		978-4-86327-388-7	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
・保育所・幼保連携型認定こども園における保育内容5領域をふり返り、保育課程を理解し、保育実践を総合的に捉える。							
・児童福祉施設等における養護内容、支援計画について復習する。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
授業開始時に伝えます。							

授業科目名	保育実習Ⅱ					科目コード	E3123
担当者	深澤 悦子・金田 美幸					履修区分	選択
開講年次	4年	開講期	前期 or 後期	実習日数	10日間	単位数	2
実習の概要・到達目標							
(概要) 保育実習Ⅰの保育所・幼保連携型認定こども園での実習をふまえて、保育実習Ⅱでは保育所・幼保連携型認定こども園等で保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。部分実習に加え、半日・全日実習を行う。家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養う。※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
(到達目標) ①保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ②子どもの個人差について理解し、多様なニーズへの対応の仕方を学ぶ。 ③保育の計画に基づいて指導計画を立案・実践し、観察、記録、記録に基づく省察・自己評価に取り組む。 ④家庭・地域社会との連携について具体的に学ぶ。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理、子どもの最善の利益を具体化する方法について保育実践に結びつけて理解する。 ⑥保育所保育士になるための自己の課題を明確にする。							
実習先行要件(下記に示す科目の全てについて、単位修得または単位修得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目) ・3年後期終了までに、告示別表1による教科目のうち、51単位以上取得していること							
(履修済の科目) ・保育実習Ⅰ・保育実習事前事後指導Ⅰ・保育実習事前事後指導							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・社会的なモラルを忘れることなく、丁寧に対応する。 ・挨拶・日誌提出・出勤・退勤等に気をつけること。(欠勤や遅刻については実習先、大学に連絡する。) ・わからないことや不安なことは、必ず確認してから行動すること。							
実習スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
7～8月 保育所・幼保連携型認定こども園・こども園(保育所型)における実習日数(10日) ・実習施設でのオリエンテーション ・実習参加 ・実習内容 1. 保育所・幼保連携型認定こども園の役割(養護と教育が一体となって行われる保育、社会的役割・責任) 2. 保育の理解(保育士の動き、保育所の生活の流れ、子どもの個人差に応じたかわり) 3. 保育内容・保育環境(環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育) 4. 保育課程に基づく指導計画作成・実践・記録・省察、自己評価 5. 入所している子どもの保護者への支援、地域の子育て家庭への支援 6. 保育士の業務内容と職業倫理 7. 自己の課題の明確化 実習参加時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習施設での評価(70%)と提出物(保育実習日誌など)(30%)によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
実習施設でのオリエンテーションの内容を理解し、実習の事前準備を十分してください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
授業開始時に伝えます。							

授業科目名		保育実習事前事後指導Ⅱ				科目コード		E3124	
担当者		深澤 悦子・金田 美幸				履修区分		選択	
開講年次		4年	開講期	通年	授業回数	8回		単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)									
保育実習Ⅱでは、大学での学習と保育実習Ⅰ（保育所・幼保連携型認定こども園等での実習）をふまえて、保育所・幼保連携型認定こども園での具体的体験を通してさらなる保育実践力を身につける。部分実習に加え、半日・全日実習を行う。そのために保育実習事前事後指導Ⅱでは、①実習に向かう構えをつくること、②実習記録や指導計画について具体的に学ぶこと、③実習をふり返り、保育所保育士になるための自己課題を明確にすることを行う。									
(到達目標)									
①保育実習の意義・目的を理解し、実習における自らの課題を明確にし、保育について総合的に学ぶ。									
②保育の計画、実践、観察、記録、省察、自己評価による保育の改善について、実践や事例を通して学ぶ									
③保育士の専門性と職業倫理について理解する。									
④実習の事後指導を通して、実習を総括し、自己をふり返り、新たな課題と学習目標を明確にする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
欠席をしないこと									
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容								
1	オリエンテーション、保育実習Ⅱの意義								
2	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解、保護者支援、地域の子育て家庭への支援								
3	保育所・幼保連携型認定こども園での実習の内容と自己課題の明確化								
4	保育実践力の育成(子どもの状態に応じた適切なかわり、保育の表現技術を活かした保育実践)								
5	保育課程に基づく指導計画作成と実践、観察、記録、省察、自己評価、保育の改善								
6	実習に向けて模擬保育会								
7	事後指導① 実習内容の確認、実習の自己評価								
8	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表し、他の実習を理解し、自己をふり返り、保育所保育士になるための新たな課題を明確にする。								
成績評価方法									
提出物(実習日誌他) 80% 実習報告会プレゼンテーション 20%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者			出版社		ISBNコード		
参考書									
書名		著者			出版社		ISBNコード		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
・保育実習Ⅰをふり返り、保育指針を理解し、保育実践を総合的に捉える。									
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。									
授業開始時に伝えます。									

授業科目名	保育実習Ⅲ					科目コード	E3125
担当者	吉原 直樹					履修区分	選択
開講年次	4年	開講期	前期 or 後期	実習日数	10日間	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
1 保育実習Ⅰでの施設実習をふまえ、児童養護施設等の社会福祉施設での実践により、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。							
2 家庭と地域の生活実態にふれ、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力の実践的力量を身につける。							
※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
(到達目標)							
1 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解を深め、児童養護施設等において、養護技術を習得する。							
2 子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。							
3 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。							
4 子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。							
5 保育士の業務内容や倫を具体的に学ぶ。							
6 保育士としての自己課題を明確化する。							
実習先行要件(下記に示す科目のすべてについて、単位取得又は単位取得見込みの場合のみ履修可能)							
(単位修得済の科目)							
・3年後期終了までに、告示別表1による教科目のうち51単位以上取得していること。							
(履修済み科目)							
・保育実習Ⅰ ・保育実習事前事後指導Ⅰ ・保育実習事前事後指導Ⅲ							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・社会的なモラルを忘れることなく、丁寧に対応する。							
・挨拶・日誌提出・出勤・退勤等に気をつけること。(欠勤や遅刻については実習先、大学に連絡する。)							
・わからないことや不安なことは、必ず確認してから行動すること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
7月～8月 児童福祉施設等における実習(10日)							
・実習施設でのオリエンテーション							
・実習参加							
・実習内容							
1 児童養護施設等の養護活動に参加し、施設における支援技術を習得する。							
2 子ども(利用者)の個人差、ニーズについて理解し、対応の方法について習得する。							
3 地域との連携の在り方について、具体的に学ぶ。							
4 子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。							
5 児童福祉施設の保育士としての職業倫理を理解する。							
6 施設実習を通して、施設保育士としての自己課題を明確にする。							
実習参加時には、大学教員による訪問指導を行う。							
成績評価方法							
実習施設での評価(70%)と提出物(保育実習日誌など)(30%)によって行う。							
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
実習施設でのオリエンテーションの内容を理解し、準備をしておきましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
質問等につきましては、メールで時間帯について予め連絡・確認して下さい。							

授業科目名		保育実習事前事後指導Ⅲ				科目コード	E3126
担当者		吉原 直樹				履修区分	選択
開講年次	4年	開講期	前期 or 後期	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)							
保育実習Ⅲでは、保育実習Ⅰでの施設実習をふまえ、児童福祉施設等の具体的な体験を通して、実習を振り返り、施設保育士の専門性と職業倫理等を理解し、施設保育士としての実践的力量を身につける。							
(到達目標)							
1 施設実習の意義と目的を理解し、実習における自らの課題を明確にし、実習する施設概要を理解する。							
2 施設実習を通して、子ども、家庭、地域への理解を深める							
3 施設の支援についての観察、記録および自己評価等による支援の改善について実践や事例をとおして学ぶ。							
4 施設保育士の専門性と職業倫理について理解する。							
5 実習の事前事後をとおして、実習の総括と自己評価を行い、施設保育における支援技術を習得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。配布資料は授業でのみ配布します。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション、保育実習Ⅲの意義を理解する。						
2	施設全般の活動に参加し、支援技術を習得する。						
3	子どもの最善の利益を考慮した支援及び保護者支援について具体的に理解する。						
4	子どもの個人差等について理解し、対応方法について習得する。						
5	施設における援助計画を理解し、観察、記録の方法を習得する。						
6	施設保育士としての職業倫理を学び、対応方法について習得する。						
7	事後指導① 実習の総括と自己評価を行う。						
8	事後指導② 実習報告会で自分の実習を発表し、他の実習を理解し、自己のふり振り返り、施設保育士としての課題を明確にする。						
成績評価方法							
提出物 80% 発表 20%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
保育実習Ⅰをふり振り返り、施設保育については、実習施設について根拠法令等、多職種で連携して関わるため、他職種について理解、地域における福祉サービス等について事前準備を行いましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
質問等につきましては、メールで時間等について予め連絡・確認して下さい。							

授業科目名		教職実践演習(幼・小)				科目コード	E3127
担 当 者		佛圓 弘修 ・ 二宮 孝司				履 修 区 分	選択
開 講 年 次	4 年	開 講 期	後期	授 業 回 数	15 回	単 位 数	2
授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標							
(概 要)							
本授業は、幼稚園・小学校教員の職を志して4年間学んできた大学での学びの集大成として位置づくるものである。社会人、教員としての自己課題を明確にし、知識・技能を総合的にとらえて修得し、実践的な力の獲得をめざし、教職生活を円滑にスタートできることをめざすものである。							
(到 達 目 標)							
主として、①教師としての使命感、責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児児童理解や学級経営、④保育内容、各教科・教科外活動における指導力、以上4つの項目を中心に、課題を自覚し、必要に応じて不足をしている知識・技能を補い、その定着を図り、教師としての基礎的専門的力量を高め、教育現場に臨む準備をする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
幼稚園教諭 1 種免許、小学校教諭 1 種免許を取得し、教員として 4 月以降働くことを想定して授業を行うため、教員として・社会人としての真摯な態度で受講すること。その際、履修カルテをもとに、これまでの学びを振り返るとともに、具体的・実践的な活動を行うため、よりよい教師になるように努力すること。必要な資料は適宜配布するので、まとめておくこと。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講 義 内 容						
1	学びの履歴の振り返り:履修カルテや実習日誌などにより振り返りをする。						
2	自己課題の明確化:履修カルテなどによる自己課題を意識化する。						
3	教職の意義の確認:学校や教員の役割や責務について集団で話し合う。						
4	教員の役割や責務の確認:教育現場経験者の講話を通して具体的に理解する。						
5	地域・家庭との連携の考察:授業や実習などの経験から話し合い、考察する。						
6	地域・家庭との連携の理解:教育現場経験者の講話を通して具体的に理解する。						
7	学級担任の仕事の理解:授業や実習などの経験から話し合い、考察する。						
8	学級経営に関する考察:教育現場経験者の講話を通して具体的に理解する。						
9	育ちあい学び合う仲間づくりの指導:生活集団・学習集団を育てるための 1 年間の指導を考察する。						
10	学級通信や学級づくりについて具体的に学ぶ。						
11	一人一人のニーズに応じる指導:個々の子どもたちのニーズ理解と対応の仕方を知る。						
12	研究授業参加:幼稚園や小学校の研究授業・協議会に参加する。						
13	研究授業参加:幼稚園や小学校の研究授業・協議会に参加する。						
14	幼稚園や小学校に勤務する先輩から学ぶ。						
15	まとめ						
成 績 評 価 方 法							
提出物 50%、発表 50%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教 科 書							
書 名		著 者		出 版 社		ISBNコード	
幼稚園教育要領解説(平成 30 年改訂)		文部科学省		フレーベル館		978-4-577-81447-5	
小学校学習指導要領(平成 29 年改訂)		文部科学省		東洋館出版社		978-4-491-03460-7	
参 考 書							
書 名		著 者		出 版 社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
これまでの学びを振り返り復習をしておくこと、子ども・教師・教育に関するニュースや情報を得ること、授業での課題を準備することなどを適切に行いましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
各研究室にて行いますが、基本はオフィスアワーを利用してください。事前に相談があれば、その他の時間でも可能です。							

授業科目名		保育実践演習				科目コード	E3128
担当者		金田 美幸・深澤 悦子 / 瀧口 美絵 / 吉原 直樹				履修区分	選択
開講年次	4年	開講期	後期	授業回数	15回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
保育に関する現代的な課題についての現状分析、考察および検討を行う。保育課題に対しては、問題解決のための対応や判断・方法の学びを深める。							
その際、ポートフォリオをもとに、保育士課程の科目の履修状況を確認し、保育士としての必要な知識や技能を修得したかなど、自らの学びを振り返る。							
(到達目標)							
1. 保育に関する現代的な課題について分析および検討し、他者と集団思考ができる。							
2. 保育に関する課題を発見し、解決のための対応について、自分の考えをプレゼンテーションできる。							
3. 保育士として必要な知識や技能を修得したことを確認する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・日常生活において、保育の現状について、関心をもつようにしましょう。							
・適宜資料を配布しますので、ファイリングをすること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容					担当者	
1	保育実践演習とは					金田 美幸・深澤 悦子	
2	ポートフォリオで学びを振り返る					金田 美幸・深澤 悦子	
3	保育実習等を通じて学んだことや課題について考察する					金田 美幸・深澤 悦子	
4	保育実習等を通じて学んだことや課題についてグループ討議					金田 美幸・深澤 悦子	
5	保育実習等を通じて学んだことや課題についてのプレゼンテーション					金田 美幸・深澤 悦子	
6	グループでテーマ(1)を設定し、調べ学習をする					瀧口 美絵	
7	グループでテーマ(1)ごとにプレゼンテーションの方向性を探る					瀧口 美絵	
8	グループでテーマ(1)ごとにプレゼンテーションする					瀧口 美絵	
9	グループでテーマ(1)ごとにプレゼンテーションする					瀧口 美絵	
10	テーマ(2)を通して調べ学習をする					瀧口 美絵	
11	テーマ(2)ごとにプレゼンテーションの方向性を探る					吉原 直樹	
12	テーマ(2)ごとにプレゼンテーションの方向性を探る					吉原 直樹	
13	テーマ(2)ごとに PP で、プレゼンテーションをする					吉原 直樹	
14	テーマ(2)ごとに PP で、プレゼンテーションをする					吉原 直樹	
15	自己課題を深め、目指す保育士像や今後の取組や方法を明確にする					吉原 直樹	
成績評価方法							
期末 試験(各テーマでのレジュメ) 50%、プレゼンテーション 50%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
これまで記録してきたポートフォリオを予習および復習に活用する。保育に関して多様な思考ができるようにすること。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オリエンテーションの際にアナウンスします。							

※保育士課程教科目担当者:年度ごとの輪番制で2名ずつが担当し指導にあたる。ただし、1～5回は実習担当者が指導する。

授業科目名		指導案実践研究				科目コード	E3129
担当者		二宮 孝司 / 権田 あずさ				履修区分	選択
開講年次	2 年	開講期	前期	授業回数	15 回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
教科内容や保育内容解釈し、授業構成の議論を中心に各教科に通じる指導の構想、計画・立案し、具体的に指導案の書き方を習得する。また児童教育や保育における生活やあそびを構想、指導案計画・立案し、具体的に書き方を習得する。さらに、立案した指導案をもとに、教材を開発し、あそびを開発するなどして、模擬授業や模擬保育を実践することで、学生同士の交流しながら主体的に学ぶ。							
(到達目標)							
・小学校の各教科、領域の指導案を構想し、計画・立案する基礎を習得する。							
・幼児教育、保育における生活・あそびを構想し、指導案を計画・立案する基礎を習得する。							
・それぞれの指導案をもとにして、模擬授業や模擬保育を行うことができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
毎回の指導案作成が成績評価の中心になります。							
自他の指導案はファイルして、いつでも活用(振り返り)できるようにしておいてください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	【小初特】指導案とは、授業とは何か・【保幼】授業の目標／評価／指導案とは何か						
2	【小初特】国語科の指導案作成と模擬授業・【保幼】子どもの姿とは(発達を目安と個人差への配慮)						
3	【小初特】社会科の指導案作成と模擬授業・【保幼】自然を生かした保育						
4	【小初特】算数科の指導案作成と模擬授業・【保幼】地域を生かした保育						
5	【小初特】理科の指導案作成と模擬授業・【保幼】構想のプレゼンテーション／活動を予測し視覚化する試み						
6	【小初特】生活科の指導案作成と模擬授業・【保幼】ねらいとは何か(指針・要領のねらい／保育観と願い)						
7	【小初特】音楽科の指導案作成と模擬授業・【保幼】主体的な活動とは(子どもの願いと保育者の願い)						
8	【小初特】図画工作科の指導案作成と模擬授業・【保幼】指導案を構成してみよう(時間と空間)						
9	【小初特】家庭科の指導案作成と模擬授業・【保幼】保育の様子を見てみよう(予想される指導案作成)						
10	【小初特】体育科の指導案作成と模擬授業・【保幼】指導案作成に向けて／3 歳児の遊び(作成 1)						
11	【小初特】道徳の指導案作成と模擬授業・【保幼】4 歳児の遊び(作成 2)／5 歳児の遊び(作成 3)						
12	【小初特】外国語活動の指導案作成と模擬授業・【保幼】模擬保育に向けた準備						
13	【小初特】総合的な学習の時間の指導案作成と模擬授業・【保幼】模擬保育 1						
14	【小初特】特別活動の指導案作成と模擬授業・【保幼】模擬保育 2						
15	【小初特】指導案を中心とした評価と改善・様々な指導案・【保幼】まとめと振り返り						
成績評価方法							
【小初特】提出物 40％ レポート 60％ 【保幼】提出物(授業内課題)40％ 指導案及び模擬保育 60％							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
毎回、プリントを配布します。							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
保育所保育指針および解説書		厚生労働省					
幼稚園教育要領		文部科学省					
小学校学習指導要領		文部科学省					
幼保連携型認定子ども園教育保育要領		内閣府					
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
各教科・領域、生活・あそびの指導案作成の時間は限られていますので、それぞれの内容の予習・復習(宿題を含む)に努めるよう心がけてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
直接研究室を訪ねるか、担当教員もしくは事務を通してメール等で連絡してください。							

授業科目名		子どもの生活と遊びの探求Ⅰ				科目コード		E3130	
担当者		渡邊 拓真				履修区分		選択	
開講年次		2年	開講期	前期	授業回数	15回	単位数		2
授業の概要・到達目標									
(概要) 「生活」「遊び」という言葉の一般的な意味の理解にとどまらず、子どもにとって「生活」「遊び」とは何を指すのかを考える。保育者として子どもとかわる際に必要となる、子どもの生活と遊びについての理解を、実際に体験しながら学ぶ。									
(到達目標) 子どもの生活と遊びについて、実際に体験することを通して理解する。 その上で、子どもの生活や遊びを充実させるために必要な保育者のかかわりを考え、学ぶ。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
実際に遊びを体験するため、動きやすく汚れを気にしない服装で受講すること。									
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容								
1	生活① 子どもの「生活」とは								
2	遊び① 子どもの「遊び」とは								
3	遊び② 子どもの「身体を使った遊び」を考える								
4	生活② 子どもと「もの」とのつながりを考える								
5	生活③ 子どもと「ひと」とのつながりを考える								
6	生活④ 子どもと「こと」とのつながりを考える								
7	生活⑤ 子どもの生活にある「危険」について考える								
8	遊び③ 子どもの「製作遊び」を考える								
9	遊び④ 子どもの「ごっこ遊び」を考える								
10	遊び⑤ 子どもの「玩具を使った遊び」を考える								
11	遊び⑥ 子どもの「自然物を用いた遊び」を考える								
12	遊び⑦ 森で遊ぶ(1)草や虫、小さな生物と出会う								
13	遊び⑧ 森で遊ぶ(2)自然を感じる								
14	遊び⑨ 森で遊ぶ(3)自然に触れて遊ぶ								
15	遊び⑩ 森で遊ぶ(4)森の探検に出掛ける								
成績評価方法									
授業内での討論への参加 50%、各講義終了時に「学びの記録(小レポート)」を提出 50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者		出版社		ISBNコード			
適宜、資料を配布									
参考書									
書名		著者		出版社		ISBNコード			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
実際に体験して、自分で考えることが学びになります。それらを意識して授業に取り組みましょう。									
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。									
第1回目の授業でお知らせします。									

授業科目名		子どもの生活と遊びの探究Ⅱ				科目コード	E3131
担 当 者		國清 あやか / 須崎 朝子				履 修 区 分	選択
開 講 年 次	3 年	開 講 期	前期	授 業 回 数	15 回	単 位 数	2
授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標							
(概 要)							
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え、子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識および技術を学ぶ。							
(到 達 目 標)							
1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育の内容を理解し、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技能を実践的に習得する。							
2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実技演習の際には、汚れてもよい服装で出席すること。							
配付資料は予備を準備しません。紛失した場合は各自の責任において補充すること。							
※コースによって「科目区分」が違います。教育課程表をよく確認してから、履修登録を行ってください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講 義 内 容					担 当 者	
1	子どもの発達と造形に関する知識と技術					國清 あやか	
2	ちぎる、破る、切る、はる遊び					國清 あやか	
3	たたく、丸める、つまむ遊び					國清 あやか	
4	描く、塗る遊び					國清 あやか	
5	身近な自然やものの色や形に親しむ経験					國清 あやか	
6	感触やイメージ等に親しむ経験					國清 あやか	
7	スケッチブックシアターの作成					國清 あやか	
8	スケッチブックシアターの発表					國清 あやか	
9	乳幼児における音楽的感性の発達と音楽あそび					須崎 朝子	
10	年少児における音楽的感性の発達と音楽あそび					須崎 朝子	
11	年中、年長児における音楽的感性の発達と音楽あそび					須崎 朝子	
12	楽器の種類と奏法、オリジナル楽器について					須崎 朝子	
13	保育における鍵盤楽器の活用					須崎 朝子	
14	保育における即興表現					須崎 朝子	
15	舞台作品の制作(脚本づくりと演出)					須崎 朝子	
成 績 評 価 方 法							
実技演習による作品・鑑賞カード 50%、授業内課題への取り組みと作品制作 50%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教 科 書							
書 名		著 者		出 版 社		ISBNコード	
適宜プリント配付							
参 考 書							
書 名		著 者		出 版 社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
配付したプリントを基に復習をしましょう。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
第1回目の授業でお知らせします。							

授業科目名		特別研究Ⅰ				科目コード	E3132
担当者		子ども教育学科専任教員				履修区分	必修
開講年次	3年	開講期	通年	授業回数	30回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)							
4年次の卒業研究に向けて、研究の基礎的方法について理解したうえで、自身の研究テーマを明確に意識し、研究計画を立てる。							
(到達目標)							
①これまで学習したことをふまえて研究テーマを明確にすることができる。							
②研究テーマに基づき研究計画を立てることができる。							
③研究計画に基づき、先行研究の分析ができる。							
④特別研究Ⅰの成果をまとめて発表を行うことができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
各担当教員からアナウンスをします。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	オリエンテーション			16	先行研究の収集③		
2	研究をすすめるとは			17	先行研究の収集④		
3	研究方法について①			18	先行研究の収集⑤		
4	研究方法について②			19	先行研究の検討①		
5	研究方法について③			20	先行研究の検討②		
6	研究方法について④			21	先行研究の検討③		
7	研究方法について⑤			22	先行研究の検討④		
8	研究テーマの設定に向けて①			23	先行研究の検討⑤		
9	研究テーマの設定に向けて②			24	成果発表会に向けた準備①		
10	研究テーマの設定に向けて③			25	成果発表会に向けた準備②		
11	研究テーマの設定に向けて④			26	成果発表会に向けた準備③		
12	先行研究の収集方法①			27	成果発表会に向けた準備④		
13	先行研究の収集方法②			28	成果発表会に向けた準備⑤		
14	先行研究の収集①			29	成果発表会①		
15	先行研究の収集②			30	成果発表会②		
成績評価方法							
講義の提出物 60%、成果発表要旨 20%、成果発表 20%							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
各担当教員からアナウンスします。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
各担当教員からアナウンスします。							

授業科目名	特別研究Ⅱ					科目コード	E3133
担当者	近藤 毅 / 佛圓 弘修 / 二宮 孝司 / 國清 あやか / 金田 美幸					履修区分	選択
開講年次	4年	開講期	通年	授業回数	30回	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) これまでの大学での学びを踏まえ、子どもにとって、魅力ある教師・保育者とはどういったものなのか、また教師・保育者としての生き甲斐とは何かを探り、教師・保育者として働く自己の未来を具体的に思い描くことができるよう、ゼミ形式で学生同士の積極的な討論等を組織しつつ深めていく。							
(到達目標) ①理想の教師像・保育者像を明確にもつことができる。 ②教師・保育者としての自己の未来像を具体的にイメージすることができる。 ③実践報告・記録を的確に読み解き、批判的に検討して、自己の実践に生かすことができる。 ④自分自身が教師・保育者となった際に行う実践について、具体的なイメージをもつことができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
各担当教員からアナウンスします。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	オリエンテーション			16	地域社会との関わりについて③		
2	魅力ある教師・保育者について①			17	実践報告・記録の収集①		
3	魅力ある教師・保育者について②			18	実践報告・記録の収集②		
4	魅力ある教師・保育者について③			19	実践報告・記録の収集③		
5	教師・保育者の仕事の魅力について①			20	実践報告・記録の批判的検討①		
6	教師・保育者の仕事の魅力について②			21	実践報告・記録の批判的検討②		
7	教師・保育者の仕事の魅力について③			22	実践報告・記録の批判的検討③		
8	現在の教師・保育者の役割について①			23	実践報告・記録の批判的検討④		
9	現在の教師・保育者の役割について②			24	実践報告・記録の批判的検討⑤		
10	現在の教師・保育者の役割について③			25	実践報告・記録の批判的検討⑥		
11	保護者との関わりについて①			26	理想の教師・保育者像を考える①		
12	保護者との関わりについて②			27	理想の教師・保育者像を考える②		
13	保護者との関わりについて③			28	理想の教師・保育者像を考える③		
14	地域社会との関わりについて①			29	理想の教師・保育者像を考える④		
15	地域社会との関わりについて②			30	講義のまとめ		
成績評価方法							
講義の提出物 50%、発表 50%							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
各担当教員からアナウンスします。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
各担当教員からアナウンスします。							

授業科目名		卒業研究				科目コード	E3134
担当者		子ども教育学専任教員				履修区分	必修
開講年次	4年	開講期	通年	授業回数	30回	単位数	4
授業の概要・到達目標							
(概要)							
専門領域に関わる中から、各自の関心、課題意識に基づいた研究テーマを設定し、その課題の意味づけを明確にもちつつ、適切な研究計画を立案し、その計画に基づいて研究を進め、最終的には卒業論文としてまとめる。							
(到達目標)							
①専門領域に関わる中から、自身の研究テーマを設定することができる。							
②研究テーマに関する意味づけを明確にもつことができる。							
③実現可能な研究計画を立案し、それを遂行することができる。							
④卒業論文を執筆し、研究発表することができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
各担当教員からアナウンスします。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	オリエンテーション			16	具体的な研究⑥		
2	「特別研究Ⅰ」成果発表会の振り返り			17	具体的な研究⑦		
3	研究テーマの設定①			18	具体的な研究⑧		
4	研究テーマの設定②			19	具体的な研究⑨		
5	研究方法の検討①			20	卒業論文の執筆①		
6	研究方法の検討②			21	卒業論文の執筆②		
7	研究計画の作成①			22	卒業論文の執筆③		
8	研究計画の作成②			23	卒業論文の執筆④		
9	先行研究の分析①			24	卒業論文の執筆⑤		
10	先行研究の分析②			25	卒業論文の執筆⑥		
11	具体的な研究①			26	口頭発表に向けた準備①		
12	具体的な研究②			27	口頭発表に向けた準備②		
13	具体的な研究③			28	口頭発表に向けた準備③		
14	具体的な研究④			29	口頭発表会①		
15	具体的な研究⑤			30	口頭発表会②		
成績評価方法							
卒業論文 60%、口頭発表要旨 20%、口頭発表 20%							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
各担当教員からアナウンスします。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
各担当教員からアナウンスします。							

授業科目名		キャリア教育Ⅰ				科目コード	E3135
担当者		竹林地 毅				履修区分	必修
開講年次	1年	開講期	通年	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 大学入学までに学んだキャリア教育を振り返り、キャリア教育の意義を考え、大学で学ぶ意味や目標を明確にしなが ら、大 学生生活のなかで伸ばしたい力(人間関係力・コミュニケーション力、情報収集力、思考力・課題解決力、計画実行力)につい て、他者との対話のなかで気づきと学びを深める。保育者・教育者となってキャリア教育を実施する場合に活用できるようにす る。							
(到達目標) (1)キャリア教育の意義を実感し、キャリア教育に関する知識を身に付ける。 (2)自分のキャリア発達のために、他者との対話や省察から自己を客観的・多面的に分析し評価する能力を身に付ける。 (3)幼児児童のキャリア発達を促す教育をするために必要な知識・技能等を身に付ける。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
8回中1回分は、学部で設定する進路に関わる行事(卒業生の講話等を聴く「進路Day」)に出席すること。資料を適宜配布す るので、作成した「振り返りレポート」と併せて「キャリアデザインノート」としてファイルすること。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	幼稚園・保育所から高等学校までのキャリア教育の意義						
2	大学のキャリア教育の意義と「キャリアデザインノート」の活用						
3	大学生活で伸ばしたい力(人間関係力・コミュニケーション力)						
4	大学生活で伸ばしたい力(情報収集力)						
5	大学生活で伸ばしたい力(思考力・課題解決力、計画実行力)						
6	働くことの意義と権利・義務						
7	進路決定のプロセスと大学卒業の職業選択(進路に関わる行事(卒業生の講話等を聴く「進路Day」)						
8	「キャリアデザインノート」による課題の整理						
成績評価方法							
毎回の「振り返りレポート」20% 「キャリアデザインノート」80%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
授業の内容を自分事としてとらえ、他者との対話を通じて自己理解を深めていく姿を期待しています。また、「キャリアデザイ ンノート」をポートフォリオ評価として活用し、現在や将来についての客観的な見方を身に付け、自分づくりに役立てましょ う。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
質問・相談は、大学のメールアドレス (chikurinji@hcu.ac.jp) で受け付けます。研究室での面談を希望する場合は、メ ールで事前に予約をしてください。							

授業科目名		キャリア教育Ⅱ				科目コード	E3136
担当者		森下 真実				履修区分	必修
開講年次	2年	開講期	通年	授業回数	8回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) キャリア教育Ⅰを踏まえ、人間にとっての労働を基本的人権として保障している労働法についてその意義と内容を理解するとともに、教育職・保育職に就くことの意義を現場の実態を参照して総合的に考察するようにする。これらとあわせて、「自己理解」の理論・内容を学び、希望する職に向けての具体的なスケジュールと目標を定かにしていく。							
(到達目標) ・労働法の目的と内容を理解することを通して、人間にとっての労働・職業の意義を理解する。 ・教育・保育の現場における具体的な実態を基にしながら、教育職や保育職に求められる必須の能力、知識、スキルなどについて総合的に理解することができる。 ・教育・保育の現場で働く教師や保育者の語りを聞いたり、「自己理解」を深めたりしながら、職に就くための準備とスケジュールに対して具体的な見通しを持てるようにする。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
スマートフォンの使用、居眠り、私語等の迷惑行為は禁止します。また、授業に必要なものは、机上に置かないでください。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	オリエンテーション						
2	労働法の意義と意味について						
3	「自己理解」の理論と内容等①						
4	「自己理解」の理論と内容等②						
5	求められる教師像・保育者像についての集団討議と考察①						
6	求められる教師像・保育者像についての集団討議と考察②						
7	教育現場・保育現場で働く人との交流						
8	本授業の総括と就職活動に向けたスケジュールづくり						
成績評価方法							
授業内のワークシート 100%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
適宜プリントを配布します							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
社会事象として教育や保育を捉えられるように意識しながら、常日頃から多様な情報を得られるように努力し、資料整理に努めるようにしてください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
オリエンテーションの際にお知らせします。							

授業科目名	キャリア教育Ⅲ				科目コード	E3137	
担 当 者	近藤 毅 / 金田 美幸				履 修 区 分	必修	
開 講 年 次	3 年	開 講 期	通年	授 業 回 数	8 回	単 位 数	1
授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標							
(概 要)							
キャリア教育Ⅰ及びⅡを踏まえて、学習の拡大、深化を図る。現代社会における子どもの教育などを巡る問題を追及し合う。課題に取り組むことを通して、教育に関する知見を広げ、教育を支える実践的な力量の基礎を培う。また、社会の問題などについて考えることから、自分がどのように職業キャリアを積んでいくのか、そのためには何をなすべきかを決め、ビジョンをもてるよう職業観を育む。							
(到 達 目 標)							
① キャリア教育に関する知見を理解する。							
② キャリア教育の基礎を獲得する。							
③ キャリア教育の指導者としての資質を向上させる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
・毎回、講義資料プリントを配布します。止むを得ず講義を休む場合は、コピー等で入手すること。							
・最低限の学習のルール(私語禁止・携帯禁止・飲食禁止など)は守ること。目に余る場合は、退出してもらいます。							
・各講義時間の最後に簡単な質問や課題を出します。これを通して出席確認とします。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講 義 内 容						
1	講義内容のガイダンス、キャリア教育における言葉の意味と学校教育に導入された経緯 など *講義形式						
2	自己理解:自分を見つめる(“自分の夢や志”づくり) *個別の作業中心						
3	現代社会の労働環境を考える(賃金、社会保障、労働形態など) *講義形式とグループワーキング						
4	現代の教育課題(教員、子ども、親、地域社会の問題) *講義形式と個別の作業						
5	ニュース記事から学ぶ教育課題 *グループワーキング中心						
6	社会の価値観と望まれる教師像 *グループワーキング中心						
7	教育課題に対するレポートづくり(テーマ別) *個別の作業						
8	進路デー *外部講師						
成 績 評 価 方 法							
レポート30% 毎回実施する課題へのレポート70%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教 科 書							
書 名		著 者		出 版 社		ISBNコード	
参 考 書							
書 名		著 者		出 版 社		ISBNコード	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
・配布資料と授業記録ノートを復習する。							
・様々な教育課題について、ニュースや新聞等で課題を考察する。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
担当教員の研究室に来てください。							

授業科目名		キャリア教育Ⅳ				科目コード	E3138
担当者		白神 聖也				履修区分	必修
開講年次	4 年	開講期	前期	授業回数	8 回	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) キャリア教育Ⅰ～Ⅲをふまえ、教育・保育ほかの現場で社会人として共通に必要な最低限の常識を学ぶとともに、採用に向けて必要な諸能力を身につける。							
(到達目標) 1. 社会人として必要とされる最低限のマナーやルールを身につける。 2. 就職に向けて必要な諸能力を身につける。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実際の場面でもそのまま生かせるように常に真剣な態度で授業に臨むことが大切です。 日頃から新聞や自習室の本などに目を通しておいください。 授業中の私語厳禁。							
授業スケジュール ※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容						
1	履歴書、自己PR・志望理由書の書き方						
2	面接の受け方、自己紹介・スピーチの仕方						
3	社会人としてのマナー1(敬語、言葉遣いなど)						
4	社会人としてのマナー2(手紙、メール、電話応答、名刺交換など)						
5	小論文の書き方、時事問題						
6	差別語と勤務上の留意点、個人情報の取り扱い、ストレス解消法						
7	教師・保育士のやりがいと労働法、給与、税金、社会保険						
8	人権、ハラスメント、カウンセリング、保護者対応						
成績評価方法							
レポートなど 100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
なし							
参考書							
書名		著者		出版社		ISBNコード	
仕事の敬語		本郷陽二		日経BP社		978-4-8222-5163-5	
面接 自己PR・志望動機		坂本直文		高橋書店		978-4-471-46034-1	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
授業後には配布プリントなどで復習し、自習室にある関連図書に目を通してください。							
教員との連絡方法 ※質問・相談など時間を要する場合は、教員に事前に連絡・確認を必ず取ってください。							
担当教員の研究室に来てください。							